
アンパン万

ペペロン夢次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンパン万

【Nコード】

N2091F

【作者名】

ペペロン夢次郎

【あらすじ】

バタ子の恐ろしい野望はついに実現する！！復讐に燃えるアンパン万たち！しかしバタ子の操るアンパンマン号の前に敗れ、逃げ落ちていくのだった……

第68話 「さよならアンパン万！！ 悲しき小麦粉の誇り！！」

アンパン万 「アンツツツ！パンチツツ！！！」

バイキン万 「……なにを……っ！！……バカ……な！！」

カレーパン万 「科学力はこの村の希望べへ。

今はまた眠ってもらうべへ。」

バイキン万 「……カレー……パン……！！？」

- - - - -
- - - - -
- - - - -
- - - - -

前回までのアンパン万は……

バタ子の恐ろしい野望はついに実現する！！

ジャムおじいさんとの接触を試みるアンパン万だったが
すでに動かぬ人となっていたのだった……

復讐に燃えるアンパン万たち！
しかしバタ子の操るアンパンマン号の前に
敗れ、逃げ落ちていくのだった……

- - -
- - -
- - -
- - -

アンパン万 「……オマエを相手に数十年……」

生きて帰れると思ったことはない……」

アンパン万 「いつからか……」

その才能に触れる日々を楽しむようにな

っていた……」

バイキン万 「……なにを今に……！！」

ショクパン万 「ドキンと仲良くな。」

バイキン万 「……ショクパン！……それはおまえこそが……！！！！」

ショクパン万 「知ってるさ。……いや、お前たちだったな。」

バイキン万 「！！？」

カレーパン万 「この世界ユウイツのカップルだべべ。」

親父のいない子にはさせないべべ。」

バイキン万 「キサマ！！？ どこでそれを……！！」

バタ子 「どこへ逃げる!!」

崩れパンごときが!! なにができる!!
アンパンマン号さえ手に入ればオマエ達

など敵ではない!!」

カレーパン万 「……バター女がもう来るべへ。

待てない女だべへ。」

アンパン万 「……三人同時にいこう。 時間稼ぎにはなるだろう。」

ショクパン万 「 時間稼ぎかよ。 笑 チンケな最期だな。」

バイキン万 「 まで!! ……オレに……作戦がある!! ……」

アンパン万 「 バンキンロボのエネルギー炉を利用して自爆する気だろう。」

バイキン万 「 !? 」

カレーパン万 「 その程度の熱と爆風では無駄べへ。

アンパンマン号の最強たる意味は
その装甲の強さべへ。」

バイキン万 「 ……わかるまい! ……やらねば!! ……」

アンパン万 「思い上がるな！！ いちバイトの分際が！」

カレーパン万 「万年アシスタントがよく言うべべ。」

ショクパン万 「よう！そろそろ犬の散歩の時間だろ？ 笑」

バタ子 「黙れ！！何も聞こえぬわ！

よ。 これからの支配者はこの全能なるバタ女王

力こそ絶対…… 今はわたしの手にある！！
……もうよい。 ジャムのところまで送っ

てやろう……」

アンパン万 「……いい人だった。

小麦粉と小豆だったオレに光をくれた人だった……」

カレーパン万 「パンの世界にカレーなんて物好きな年寄りだべべ……」

ショクパン万 「何度言っても女みたいに白くしてくれやがってよあ……」

アンパン万 「オマエだけは許すわけにはいかない。

「ジャム・ブランドの誇り……！！」

!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

「……哀れなパンね」

アンパン万ここに散る！！！！！！

次回へつづく。

第72話 「最終決戦！！ 嘘と実！！」

バイキン万 「目標はパン工場のメインコンピュータ。
そしてアンパンマン号の2点だ。

皆 生きて帰るぞ……

行動開始！！！！」

- - - - -
- - - - -
- - - - -
- - - - -

前回までのアンパン万は……

パン工場のメインコンピュータへのハッキングに成功し
アンパンマン号の設計図を手に入れる！！！！

勝機をつかむバイキン万たち！！！！

しかしそのメインコンピュータそのものがバタ子によって
仕組まれた偽物だった！！！！

罠に落ちるバイキン万！！

勝利を確信するカビルリンたちの勢いのままに
一斉攻撃は開始される！

- - - - -
- - - - -
- - - - -
- - - - -

ホラー万 「 ひるむな！！ 押しすすめ！！！」

チーヅ （通信） 「 こちらチーヅ。

予測通り、パン工場の襲撃が始まった。

敵将はホラー万だ。

迎えうつ！」

バタ子（通信） 「 その部隊こそ主力部隊よ。

恐らく、そのホラー万はバイキン万が変装しているわ。ほぼ予定通りよ。」

バタ子 「 ということはこっちのバイキン万の正体はホラー万ね……」

バイキン万 「 ホラホラ……！！ 一点突破だり……！！。ハヒフヘフ

……！！！」

バタ子 「 久し振りね。バイキン万。

ずいぶんと痩せたようだけれども。」

バイキン万 「 今日でお前はおしまいだり……！！。ハヒフヘフー

……！！！」

バタ子 「 どうかしらね……。」

バイキン万 「 知ってるだり！ まわり込むだり……！！

後方が排気口になってるだり……！！！」

バイキン万「詰まらせるだり！！！！」

カビルンリン（バイキン万隊）「突っ込めー！！！！！！」

バタ子「さあ……どうなるかしら」

！！！！！！！！

バイキン万「な！？　なんでだり！？！　ピンピンしてるだり！！！！」

バタ子「後ろは排出する熱の出口……　超高温の地獄よ。
何秒生きていられるかしらね。」

カビルンリン（バイキン万隊） 「あああ熱いつ！！！助けてえ！！！！！」

バイキン万「ああ！！！！カビルリン！！！！今助けるだり！！！」

バタ子「ホ！！ 自ら死地に行くなんて！！！！
そうして生きたまま焼かれて死ぬがいいわ！」

バイキン万「ああ！！ 熱いだり！！！！
変装が燃えてしまうだり！！！！」

「バタ子、今よ。全力後進！！」

「そのまま壁に叩きつけてやりなさい！！！！！！」

操縦士「はっ！！」

「バイキン万
ぐへえっ！！！！！！！！！！」

ホラー万 「もうすぐだ!! あと少しでパン工場だ!!!」

カビルンリン（ホラー万隊） 「ま、また新手のバタ子の援軍が…
…!!!」

ホラー万 「きりが無い……!!
まるで読まれているかのようだ……!!!!」

チーヅ 「マヌケめ!!
ここにはお目当てのメインコンピュータはないぞ!!!」

チーヅ 「笑えるぞ!! 残念だったな!!
他の部隊は排熱口に突っ込んで全滅だそうだ!!!
どうするホラー万!!…… いやバイキン万!!!!!!」

「……クス 笑」

チーヅ 「 ?
」

ホラー万 (?) 「 マヌケはアナタでしょ。
」 ワ・ン・ちゃん

チーヅ 「 ! ! ! ? ? ?
」

バイキン万 「 まままだだり…… ! !
いいいかせないだり…… !

！
」

バタ子「……………どうして……………こうゴミどもは往生際が悪いのかしら。
アンパン万といい、ジャムといい……………
何になる……………？」

バイキンマンことホラー万さん……………？」

バイキン万（ホラー万）「……………ふへへへへ……………ハヒフヘフー！
」

バタ子「……………フンっ……………狂人め！……………いまいましい！！」

チーヅ（通信）「やられた……………！！……………！！……………！！……………！！
こっちのホラー万はドキン・チェンだ……………！！……………！！……………！！
バイキン野郎はどこにいる……………！！……………！！……………！！……………！！」

！？……………！？……………！？……………！！……………！！……………！！……………！！

アホウはお前だり……

「ハヒフヘフー!!!」

そんな馬

戻れっ!!!!!!!!!!!!!!」

スムーズにできません！！

! ! ! ! ! ! ! ! ! !

排熱口の突撃はそれが狙いかっつ！！！！！！！！！！！

カビルンリン（本部隊） 「……うまくいっているようですね」

バイキン万（本物） 「……そのようだ……」

カビルンリン（本部隊） 「……でもどうして殿は……ここにメインがあることがわかったのですか？」

バイキン万（本物） 「……できすぎていたのだ。うまくいきすぎている。トラップであることはすぐにわかった」

バイキン万（本物） 「ただあの偽ファイルが作成された場所だ……あれだけのモノを仕組める設備と技術は偽れない。……つまり本物のメインコンピューターこそはそこにあると……」

カビルンリン（本部隊） 「……！！……恐れいりました……さすがは殿……！！」

バイキン万（本物） 「そしてバタ子は自分の策に落ちたのだ。自分の仕掛けた罠にはかかりやすいもの……お前も覚えておくがいい。」

カビルンリン（本部隊） 「はいっ!!」

カビルンリン（本部隊） 「（!!! この人には……敵わない
!!!）」

バイキン万（本物） 「さあ 爆破するぞ。」

バイキン万（本物） 「全軍撤退だ!!!!!!」

ドキン 「もう充分! さあみんな撤退よ!!」

ホラー万 「ふへへ に 逃げるだり!! 撤退!!」

バタ子 「おのれ!!!!!!
ちくしょう!!!!!!」

-----つつつ!!!!!!

決着を告げる爆発音が響きわたる　！！！！！！

次回！！　いよいよ最終回！！！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2091f/>

アンパン万

2010年10月14日13時47分発行